

令和5年度 自己評価

令和5年度の園運営を振り返り、自己評価を行いたいと思います。

今年度は、園にとって大きな転換期となり、保育所型の認定こども園として新たにスタートを切りました。今まで通りの2・3号認定の子ども達を受け入れながら、幼児クラスに「1号認定」という新しい認定区分の園児達を受け入れ可能になり（幼児クラス各5名ずつ）、保育を提供することが出来る家庭の幅を広げる事が可能となりました。仕事などの都合上で本来教育（保育）を受けられなかった家庭（子ども達）でも保育を受け入れられる環境になり、多様な形態での受け入れが可能となる事で、保護者側の視点に立ってみてもいざという時に安心して子どもを預けられる環境が整いました。

また、「ディズニー」をテーマに1年間の行事を執り行ってきましたが、今年度はやっと新型コロナウイルスが5類になった事で、各行事で家族の参加人数も緩和させていただきました。大きい行事は2部構成や時間での開催を行い、感染対策はしっかりと取り入れながら、なるべく多くの皆様に参加していただくように配慮をして、子ども達の活躍を見ていただきました。ハロウィーンもコロナ時には園内で園児のみで行っていましたが、今年度は保護者のお手伝いや参加を募りました。町内をねり歩く形に戻す事で子ども達と保護者、職員、地域の方々が楽しくふれあい、賑やかに開催することが出来ました。卒園児のお別れ遠足（親子遠足）では、日本平動物園へと出かけて思い出を親子一緒に作ることも出来ました。

子どもの発達支援の面では、県の療育支援事業を通して臨床心理士さんにクラスの様子を見ていただきました。発達面や行動面に特性を持っている子への助言をいただいたり、成長過程における支援の仕方をご教示いただいたりして、ひとりひとりにふさわしい保育や、その子その子に見合った対応などが提供できるように取り組みました。その後は、保護者の方にも臨床心理士さんと相談できる場を設け、困りごとや気になる事などを直に対話・質問する機会も提供しました。今後も継続して子ども達の成長を促すため、療育支援を行っていききたいと思います。

保育環境面では、室内の玩具に新しい物を追加で購入し、子ども達が自由遊び時間に目新しい玩具で楽しく遊べるように配慮しました。また、知育玩具などを購入し年齢に沿って成長を促しながら遊べるようなものを追加しました。落ち着いた本などを読む時間の際は、子ども達が大好きな図鑑などを各クラス（幼児）に増やし、興味を持って本を読む活動に取り組めるようにしました。屋外においても乳幼児が使用できる新たな遊具を設置し、大きい子も小さい子も楽しく遊んでいます。総合遊具の劣化した滑り台においては、保育施設専門の業者さんをお願いし、劣化部分を撤去したのち落下防止ネットを設置してもらい安全確保に努めました。また、時期になるとカブトムシを飼育してみたり、お芋掘りの時に捕まえたヒバカリという小さな蛇を飼ってみたりすると、子ども達が興味を持って世話をしてくれました。最近では園長が子ども達に見せるために飼育しているカメ（ウランちゃん）を毎日のように眺めながら「ウランちゃん！」「カメさーん！」と笑顔で声をかけてくれています。生き物の命の大切さを知りながら、子ども達の微笑ましい日々の光景に園長も癒されています。

さて、自己評価という事で「こんな活動していたんだ」という程度に読んで頂けたら幸いです。細かく記載していたらキリがないのでこの辺りにしておきますが、最後に一つだけ、保育現場で働く先生方は子ども達としっかり向き合いながら、今できる最善を尽くしております。また、子ども達の安定した生活を守っていきたくらいと職員一丸になって務めておりますので、次年度以降も何卒よろしくお願い申し上げます。至らぬ点もあり不満がある部分もおありかと思いますが、私どもは「子どもの成長の支援」「子どもの安定した生活の提供」「子どもにとっての有益な利益を提供」というところで保育を行っており、それが結果的に「保護者支援」という部分に繋がっていると思っています。保護者の方に不都合や気に入らない部分もあるかもしれませんが、子どもの幸せを一番に考えて保育に取り組んでいる事だけをご承知おき下さるよう、お願い致します。

長くなりましたが自己評価とさせていただきます。

甲南立正保育園 園長 齋藤正善